



左から松橋君、佐々木さん、佐藤君

陸上ジュニアオリンピックへの抱負を語る

8月26日に弘前市で行われたジュニアオリンピック陸上競技大会県予選会で、それぞれの種目で1位に輝いた車力中3年の松橋力翔君（男子100m）と佐々木琉那さん（女子走高跳）、木造中3年の佐藤亮輔君（男子110mハードル）が、10月27日から横浜市内で開催される全国大会への切符を手に入れました。

全国大会に先立ち9月25日、車力中の二人が福島市長を表敬訪問。松橋君は「全国ファイナリストを目指す。目標は10秒台」、佐々木さんは「雰囲気に飲まれないようにして自己ベストを更新する」と意気込みを語りました。10月4日には佐藤君が福島市長のもとを訪れ「予選を通過して、青森県記録を出せるようにがんばる」と抱負を述べました。

園児がフナの稚魚を放流

かしわこども園（鳳至真貴園長）とかしわあつぷるこども園（山崎笑子園長）の年長児37人が9月26日、平滝沼にマブナの稚魚を放流しました。これは、子どもたちに自然や魚に触れながら生態系を保全することの大切さを学んでもらおうと、西津軽新田漁業協同組合（伊藤良二代表理事組合長）が毎年実施しているものです。

この日、水辺に並んだ園児たちは、バケツの中で泳ぐ稚魚に「元気でね」と声をかけながら優しく放流。魚が見えなくなるまで手を振って見送っていました。かしわこども園の高橋大輝君（6歳）は「放した魚が元気に泳いで楽しかった。大きくなってほしい」と成長に期待していました。



稚魚を放流する園児



大盛況の解体マグロ即売会

地元の皆さんに感謝

9月30日と10月1日の2日間、19周年を迎えた「道の駅もりたアーストップ」で大感謝祭が開催され、多くの来場者でにぎわいました。

日ごろお世話になっている地域住民と親睦を図ろうと、さまざまな企画を用意。五所川原農林高校産の米と野菜をそれぞれ先着100人にプレゼントしたほか、72kgもある近畿大学養殖本マグロの解体即売会などが人気を集め、会場は活気にあふれていました。そのほか、津軽半島の道の駅などが軒を連ね各地の特産品を販売。また、市内の園児やよさこい知求群会による演舞、上原げんと杯入賞者歌謡ショーなど多彩なステージも披露され、集まった観客を盛り上げていました。

園児が友だちの輪を広げる

第23回西北五地区こども赤十字交流会が10月4日、森田体育センターで行われ、子ども赤十字に加盟する西北五地区の保育園・幼稚園の園児ら91人がゲームやダンスなどで交流しました。市内からは、いなほ保育園、しげた保育園、もりた保育園、菰槌保育園の年長児が参加。園児らは、綱引きやリレー、フォークダンスなどを楽しみながら、交流を深めていました。いなほ保育園の野崎海晴君（6歳）は「新しい友だちがいっぱいできた」と喜んでいました。主催した西北五地区青少年赤十字指導者協議会の大橋登美子幼児部会長は「遊びを通して、赤十字精神である思いやりやいたわる心を育ててほしい」と子どもたちの成長に期待していました。



2人1組、人形を担架で運ぶ「赤十字リレー」

鈴なりのりんごに感激

つがるにしきた農協(長内隆彦代表理事組合長)による「りんご一枝オーナー収穫体験ツアー」が10月12日から2泊3日の日程で行われ、東京都、千葉県などから抽選で選ばれた20人が、つがるブランドりんごの収穫を体験しました。

12日、柏地区のりんご園に到着した一行に園主の荒谷隆志さんが「光をいっぱい浴びたおいしいりんごです。みなさん楽しんでいってください」と歓迎のあいさつ。参加者は赤くて食べごろの「シナノスイート」をよりすぐり、優しくもぎ取っていきました。神奈川から参加した熊坂佳奈さんは「細い枝にがんばって実っている姿がいておいしいですね」と鈴なりのりんごの景色を楽しんでいました。



収穫を楽しむ参加者

東北防衛局長が来庁「防衛白書」を説明

10月10日、東北防衛局の深澤雅貴局長や航空自衛隊車力分屯基地の川廣佳親司令らが、平成29年度版の「防衛白書」について説明するため、福島市長を表敬訪問しました。

「防衛白書」とは、わが国の防衛の現状・課題およびその取り組みについて広く周知を図り、その理解を得ることを目的として防衛省が毎年刊行しているものです。この日は、北朝鮮による核兵器・弾道ミサイル開発等が新たな段階の脅威になっていることや、一層厳しさを増す安全保障環境、日米同盟強化の取り組み、防衛省・自衛隊の活動等について解説。深澤局長は「安全保障環境が一層厳しさを増す中、今後は日米同盟の強化が最も重要になってきます」と話していました。



防衛白書の説明をする深澤局長

尾野義雄さん100歳おめでとう

稲垣町の尾野義雄さんが10月13日、めでたく満100歳を迎えられました。大正6年生まれ tail 野さんは、終戦まで満州国の鉄道警察に従事。帰国後は、農業を経た後、土地改良区に定年まで勤め5人の子どもにも恵まれました。

特別養護老人ホーム安住の里で行われた「百寿を祝う会」では、施設の入所者や職員など約50人が尾野さんを祝福。みんなの前で長生きの秘訣を問われた尾野さんは「何でものりくらりと生きること」と答えましたが、祝う会の事前にうかがったお話では「冗談を言って笑い合う仲間がいるから100まで生きられた」と感謝の言葉を述べていました。朝のコーヒーを飲みながら新聞を読むのが日課。穏やかに暮らしているそうです。



ろうそくを吹き消す尾野さん

まちの環境美化に貢献

10月18日、市シルバー人材センター(吉田謹治理事長)の会員ら約50人が、市役所どおりの歩道など約5kmにわたり清掃奉仕活動をおこないました。これは、毎年10月に全国で展開されているシルバー人材センター事業普及啓発促進月間に合わせ実施したものです。

11月中旬並みの寒さとなったこの日、男性会員は道路脇や側溝にたまった土砂、枯れ葉をスコップなどで丁寧に取り除く。女性会員は、雑草の草刈りなどに精を出し、用意した土のう袋150袋を回収しました。参加者は「みんなで集めるとけっこうな量になる。まちの環境美化に貢献できてうれしい」と額に汗を光らせていました。



土砂や枯れ葉を除去する会員ら